

美浜と軽井沢の不思議なご縁

～三笠ホテルと創業者・山本直良～

I 北陸新幹線がつなぐ美浜と軽井沢

令和6年、北陸新幹線が敦賀まで延伸されます。福井県内と首都圏の移動は、これまで東海道新幹線と特急列車を利用する必要がありました。しかし、北陸新幹線の開業により、これまで移動に長時間を要した甲信越や北関東など首都圏への移動が便利になります。福井県ではこれを見据え、令和4年3月に観光や文化など幅広い分野の発展に向けた連携協定を沿線の軽井沢町と締結しました。高級リゾート地として名高い軽井沢にある別荘の所有者は東京在住者が多く、本県では東京との結びつきが強い軽井沢町を通じて首都圏へのPRを進めています。

北陸新幹線によって福井県と軽井沢町の経済交流が期待されますが、実は美浜町と軽井沢町にも意外なつながりがあったのです。

II 三笠ホテル～軽井沢のシンボル～

軽井沢は、江戸時代まで中山道の宿場町として繁栄しました。明治時代には一時衰退しますが、明治中期から外国人が軽井沢の気候を好んで保養に訪れ始めると、別荘の建設が盛んになりました。やがて日本の政財界からも訪れ出すと、それまでの旅籠屋に替わって洋風のホテルが建設され、高潔さと華やかさを合わせた国際的な避暑地として



旧三笠ホテル 明治38年(1905) 国重要文化財(建造物)
軽井沢町教育委員会提供



三笠ホテルでの晩餐会(午餐会とも)。左から5人目が創業者・山本直良。

明治時代末期(大正時代初期とも) 土屋写真店提供

発展します。それに大きな役割を果たしたのが、三笠ホテルです。

このホテルはすべて日本人によって建設された純西洋式木造ホテルで、明治38年(1905)に竣工し、翌年開業しました。日本の西洋式ホテルの草分けとなった軽井沢の万平ホテルの創業者・初代佐藤万平の下、設計は岡田時太郎、施工は小林代造がそれぞれ請け負いました。岡田は辰野金吾の下で日本銀行本店本館の建設に携わった建築家で、小林は万平ホテルを建てた地元の大工でした。戦中・戦後は一時中断しましたが、昭和45年(1970)まで営業が続き、建物の改造が少なく、創業当時の面影をよく遺していることから、昭和55年(1980)に国の重要文化財に指定され、今も軽井沢のシンボルとして多くの避暑客を迎えています。

当初宿泊客の多くは外国人でしたが、やがて桂太郎や西園寺公望、渋沢栄一、有島武郎など日本の名士が訪れ出したことから、このホテルは「軽井沢の鹿鳴館」と謳われました。当時、軽井沢での過ごし方は別荘滞在が主流でしたが、このホテルの開業によってホテル滞在という新たな娯楽が提案されたのです。

Ⅲ 山本直良～三笠ホテルの創業者～

軽井沢のシンボル・三笠ホテルを開業したのは、実業家の山本直良です。彼は佐柿が生んだ実業家・山本直成の次男で、直成の跡を継ぎました。妻・愛子が有島武郎の妹であった関係から、白樺派の作家たちのサロンとして三笠ホテルが利用されたといわれます。

さて、直良は初め岩倉家に仕え、後に実業家として十五銀行や日本郵船、明治製糖(DM三井製糖ホールディングス)などの役員を務めました。また、彼は父・直成が軽井沢に購入した25万坪の広大な土地を利用し、避暑地としての発展を見据えた開発事業を計画しました。その中心に位置づけられていたのが、三笠ホテルの開業です。このように軽井沢の近代化に大きく貢献したのは、美浜町にゆかりのある実業家だったのです。



山本直良(1870-1945)

出典:『日本郵船株式会社五十年史』1935年
(国立国会図書館デジタルコレクション)

Ⅳ 福井県と軽井沢の意外なつながり

実は、これ以外にも江戸時代には福井藩主が参勤交代で滞在したほか、明治時代には福井城下(福井市)生まれの元海軍大佐で、大正時代に衆議院議員に当選した八田裕二郎が軽井沢における日本人初の別荘を建設するなど、福井県と軽井沢には歴史上の関わりがありました。福井県と軽井沢町が連携協定を締結した背景の一つには、こうしたつながりがあったのです。北陸新幹線によって再びつながった美浜と軽井沢―日本有数の避暑地から関心が集まることが期待されます。



八田別荘 明治26年(1893) 軽井沢町指定有形文化財(建造物)
軽井沢町教育委員会提供

八田が建てた木造2階建ての別荘で、4代120年以上に渡り利用されました。現在は軽井沢町が保管しています。

【主な参考文献】

岩井伝重『軽井沢町誌 歴史篇』軽井沢町誌編纂委員会、1954年
『軽井沢町誌 歴史編』(近現代編)軽井沢町誌刊行委員会、1988年
横山寛「宿帳にみる三笠ホテル小史」

『慶應義塾福沢研究センター通信』第18号、2013年
『旧三笠ホテル保存活用計画』軽井沢町、2022年

若狭国吉城歴史資料館

〒919-1132 福井県三方郡美浜町佐柿 25-2

TEL.0770-32-0050 FAX.0770-32-0057

開館時間 午前9時～午後5時(4～11月)

午前10時～午後4時30分(12～3月)

※入館は、閉館の30分前まで

休館日 毎週月曜日(休日の場合はその翌日)

休日の翌日、年末年始(12月29日～1月3日)

入館料 一般100円、小人50円 ※団体割引20名以上

